

「ル・コルビュジェの建築作品—近代建築運動への顕著な貢献—」の 世界遺産推薦について

1. 名 称

ル・コルビュジェの建築作品 —近代建築運動への顕著な貢献—

2. 概 要

ル・コルビュジェ (Le Corbusier, 1887~1965) は、パリを拠点に活躍した建築家・都市計画家。建築・都市計画のみならず絵画、彫刻、家具などの制作にも取り組み、小住宅から国際連合本部ビルの原案まで幅広い創作活動を展開した。合理的、機能的で明晰なデザイン原理を絵画、建築、都市等において追求し、20世紀の建築、都市計画に大きな影響を与えた。

本推薦は、世界各地に所在する彼の建築作品のうち、近代建築運動への顕著な貢献が見られる7カ国（フランス・日本・ドイツ・スイス・ベルギー・アルゼンチン・インド）に所在する17の資産を一括して世界遺産に登録しようとするものである。登録されれば大陸にまたがる初めての世界遺産となる。

3. 構成資産

【フランス（10資産）】

ラ・ロッシュ＝ジャンヌレ邸、サヴォア邸と庭師小屋、ペサックの集合住宅、カップ・マルタンの休暇小屋、ポルト・モリトーの集合住宅、マルセイユのユニテ・ダビタシオン、ロンシャンの礼拝堂、ラ・トゥーレットの修道院、サン・ディエの工場、フィルミニの文化の家

【日本（1資産）】国立西洋美術館

【ドイツ（1資産）】ヴァイセンホフ・ジードルングの住宅

【スイス（2資産）】レマン湖畔の小さな家、イムーブル・クラルテ

【ベルギー（1資産）】ギエット邸

【アルゼンチン（1資産）】クルチェット邸

【インド（1資産）】チャンディガールのキャピトル・コンプレックス



ラ・ロッシュ＝ジャンヌレ邸
(撮影：下田泰也)



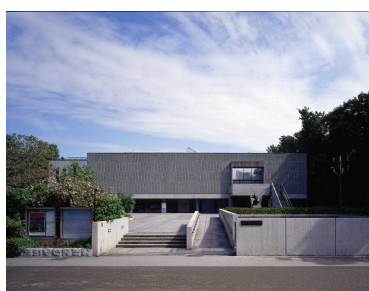
サヴォア邸と庭師小屋



マルセイユのユニテ・ダビタシオン
(撮影：下田泰也)



ロンシャンの礼拝堂
(撮影：下田泰也)



国立西洋美術館
(提供：国立西洋美術館)



チャンディガールの
キャピトル・コンプレックス

4. 評価基準

(ii) ル・コルビュジエの建築が全世界に与えた大きな影響力：

ある期間にわたる価値観の重要な交流を示す。ル・コルビュジエは、新しい建築の概念を広め、20世紀における世界中の建築に大きな影響を与えた。

(vi) 建築によるアイデア（思想）の具現化：

ル・コルビュジエの作品は「近代建築運動」という顕著な普遍的価値を有する思想と直接関連している。

5. 前回推薦からの変更点

当初推薦では、ル・コルビュジエという人物に主眼を当てていたが、イコモス勧告等を踏まえ、「近代建築運動への貢献」という点に説明の主眼を置き直した。これに伴い、構成資産についても、ル・コルビュジエの建築作品の中で近代建築運動への貢献が顕著に見られるものに絞りこんでいる。構成資産の変遷は下記の通り。

- ・当初の推薦（平成20年）：6か国22資産
- ・追加情報提出時（平成23年）：6か国19資産（当初推薦からフランスの2資産（クック邸、救世軍難民院）及びスイスの1資産（シュウオブ邸）を除外。）
- ・今次の推薦（平成27年）：7か国17資産（フランスに所在する1資産（スイス学生会館）及びスイスの2資産（ジャウル邸、ジャンヌレ邸）を除外。またインドの1資産（チャンディガールのキャピトル・コンプレックス）を追加。）

6. 関係年表

<当初推薦>

- 19年 9月 フランス政府から我が国に対し共同推薦の要請
- 同月 「国立西洋美術館（本館）」を我が国の暫定一覧表に記載
- 20年 2月 第1回推薦（6か国・22資産）
※推薦名称 ル・コルビュジエの建築と都市計画
- 10月 イコモスによる現地調査
- 21年 5月 イコモス勧告（記載延期）
- 6月 第33回世界遺産委員会（セビリア）（情報照会）

<追加情報の提出>

- 23年 1月 情報照会対応文書（実質的には改訂推薦書（6ヶ国・19資産））を提出
- 5月 イコモス勧告（不記載）
- 6月 第35回世界遺産委員会（パリ）（記載延期）

<今次推薦>

- 27年 1月 閣議了解を経て第2回推薦（7か国・17資産）
※推薦名称 ル・コルビュジエの建築作品—近代建築運動への顕著な貢献
- 8月 イコモス現地調査
- 11月 イコモスとの意見交換
- 12月 イコモス中間報告
- 28年 5月 イコモス勧告
- 7月10日～20日 第40回世界遺産委員会（イスタンブール）